

横断歩道って？

庄原市立西城小学校 五年 新田 真矢

「キーン。」

黄色の点滅信号機のある横断歩道で、急ブレーキをかけて止まろうとした車の音。僕が押しボタンを押したので歩行者信号が青になり、車両信号機は赤に変わった。

僕はもう、横断歩道の三分の一くらいまで渡りかけていた。僕は今までに聞いた事ないくらいの急ブレーキの音を聞いた。それと同時に、白い軽自動車僕が僕の体の右側近くまで接近してきた。僕は初めて死ぬかと思うくらい怖くて怖くて、頭の中が真っ白になった。そして、

「お母さんー。」

とさげびたかった。僕は、きちんと青で渡っていたのに……。

以前に叔母が、

「点滅信号はいつも黄色の点滅の時が多いからと思いこんでいると、あつとする事があるんだよ。」

と話をしてくれた事がある。この言葉を思い出した。運転手さんも叔母と同じように、点滅信号で黄色だから大丈夫と思いこんでいたのだろうと思った。だから車の運転手さんは、速度を落とさずにいつも通り運転して、僕にギリギリまで気付いてくれなかったんだと思った。ギリギリでも止まってくれたから良かったけど、そうでなかったら・・と思ったら、もつともつと怖くなり体がふるえた。そして、運転手さんだけではなく僕も信号が青に変わればもう、安全・・という思いこみがあつた事にも気がついた。

この事を家に帰って家族に話をしてみた。すると、母が、

「何年前かに真矢と同じ状態で高校生が登校中に亡くなった事があるんだよ。」

と教えてくれた。僕は本当にあの時、危険な状態だったんだと思った。僕はさらにさらに横断歩道で気をつけないといけない、いけない、と強く思った。

僕の日々の生活では、タクシーや家族の車での通学や移動が多いので、横断歩道での渡り方について深く考えたことはなかった。

あちこちにある横断歩道。僕は横断歩道では信号が青に変わり、左右確認後に渡れば良いと甘く見ていたし、安全なのだと思っていた。しかし、僕は、今回の点滅信号機での経験で横断歩道の渡り方が大きく前進できた。左右の車が速度を落として止まってくれた事を確かめ、車がどのような動きをしようとしているのかを見当づけて、横断歩道を渡ろうと思う。